

副首都推進本部（大阪府市）会議

《第14回議事録》

■日 時：令和6年9月13日（金）11：11～11：44

■場 所：大阪府役所P1階（屋上）会議室

■出席者：吉村洋文、横山英幸、山口信彦、森岡武一、渡邊繁樹、高橋徹
（名簿順）山本剛史、西山忠邦、川端隆史、池田純子、丸尾利恵、西村謙三
西島亨、大田幸子、長澤研一、上山信一

（西島事務局長）

ただいまから第14回副首都推進本部（大阪府市）会議を開催させていただきます。

本会議につきましては、会議公開の原則にのっとり、会議の状況をインターネットで配信し、配付資料、議事録は公表することといたしておりますので、あらかじめご了承くださいますようよろしくお願いいたします。

なお、公務の都合上、11時35分までに会議が終了しない場合は、会議後の囲み取材は中止とさせていただきます。

初めに、本日の会議の出席者をご紹介させていただきます。

本部長の吉村大阪府知事でございます。

副本部長の横山大阪市長でございます。

有識者として、本日、上山特別顧問にご出席をいただいております。

そのほかの大阪府、大阪市の出席者につきましては、お手元に配付しております資料1の出席者名簿のとおりでございます。

それでは、早速議題に移らせていただきます。本日の議題は、「Beyond EXPO 2025～万博後の大阪の未来に向けて～」でございます。

これまで大阪府市では、共同の戦略として「大阪の成長戦略」などを策定し、大阪の成長に向けた取組を一体で進めてまいりました。そうした中、本日の会議では、大阪・関西万博後の大阪を見据えた新たな「成長戦略」につきまして、意見交換を行っていただきたいと考えております。

それでは資料2の「Beyond EXPO 2025」につきまして、大阪府政策企画部成長戦略局、池田局長からご説明をお願いします。

（池田大阪府政策企画部成長戦略局長）

それでは、資料2に従いましてご説明申し上げます。

まず4ページをご覧ください。「次代をリードする大阪づくり」に向けた方向性を示しています。いよいよ大阪・関西万博の開催まで半年余りとなりました。万博開催都市である大阪としましては、大阪・関西万博を一過性のイベントとせず、その後の持続的な成長・発展

や、府民・市民の暮らしの向上につなげていくことが必要です。

矢印4つ目にありますとおり、世界の課題解決に貢献し、未来社会を先導する大阪を実現させるためには、大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」を具体化した「将来の大阪の姿」を明確化するとともに、その実現に向けた指針となる「大阪の成長戦略」を策定し、大阪・関西万博後速やかに取組を開始する必要があると考えています。

このため、令和7年度には新たな成長戦略と、大阪・関西万博後の将来の大阪の姿を示すべく、府市において議論を開始したいと考えています。

次に5ページをご覧ください。成長戦略の対象範囲です。大阪・関西万博で披露された新技術等の社会実装や産業化をはじめ、大阪の強みやポテンシャルを生かしたヒト・モノ・投資を呼び込むチャレンジを後押しする取組などを対象といたします。

次に、7ページからは現在の取組状況を記載しております。

8ページ中ほど、下をご覧ください。万博レガシーの継承に向けては、関西の経済界や自治体、近畿経済産業局などにおいて検討をスタートさせる動きがあり、府市としてもこの枠組みに参画してまいります。

次に10ページの中ほどをご覧ください。成長戦略は三部構成とし、第一部は経済情勢や大阪の強み等の分析を踏まえ、副首都ビジョンの目標達成に向けた道筋を明らかにする、成長への道筋。第二部は、その実現に向けた具体的取組です。その検討に向けては、府市合同タスクフォースを設置いたします。第三部では産業面だけではなく、暮らし、都市格などの観点から、将来の大阪の姿を取りまとめます。

11ページ、検討体制（案）をご覧ください。副首都推進本部（大阪府市）会議の下に成長戦略検討チームを設置し、タスクフォースの全体調整や進行管理を担います。タスクフォースはイノベーションはじめ、5つの分野を立ち上げまして、これに府市の関係部局が参画いたします。

13ページ以降は、各タスクフォースにおける議論のイメージです。これはあくまでたたき台であり、詳細は各タスクフォースにて議論していきます。

18ページをご覧ください。「具体的取組」の整理イメージです。府市において取り組むもののほか、民間やアカデミアなどの各主体において取り組むべきものを整理いたします。なお、特に国の関与を求める必要があるものについては、先ほど触れました、オール関西による万博レガシー議論の枠組みも活用し、その実現をめざします。

20ページをご覧ください。スケジュールについては本日以降、速やかにタスクフォースを立ち上げ、具体的検討に着手いたします。令和7年2月に副首都推進本部（大阪府市）会議にて中間報告を行った後、令和7年夏頃に案をお諮りし、成長戦略を策定。大阪・関西万博終了後、速やかに実行に移したいと考えております。

最後に、参考資料2-2、副首都ビジョンの概要をお配りしております。こちらの最終の3ページをご覧ください。新たな成長戦略は副首都・大阪実現への全体イメージのうち、右上の「チャレンジを促す経済政策」及びその下、「世界標準の都市機能の充実」に位置付け

られるものと考えております。

簡単ではございますが、説明は以上です。

(西島事務局長)

説明ありがとうございました。

それでは、ただいまの説明を踏まえまして、意見交換に移りたいと考えております。

最初に、本日ご出席をいただいております上山顧問からご意見、ご質問等をいただければと存じます。上山特別顧問の資料は机上に配付させていただいておりますので、よろしくお願いします。

(上山特別顧問)

それでは、お手元の資料に沿って、簡単に私の考え方を申し上げます。

成長戦略をつくる必要性は今ご説明があったとおり全くそうだと思います。ただ、言葉としての「成長戦略」というのが、ややもすればいわゆる GDP、これをひたすら大きくするというところに限定されがちなので、これからの成長戦略というのをもっと幅広く立体的に捉える必要があります。海外の他都市の例も引きながらご紹介したいと思います。

まず、成長という言葉聞いたときに、誰しも GDP の成長だと思うのは、特に日本人の特徴だと思います。海外ではグロースストラテジーというのは必ずしも GDP ではない。ただ、GDP については、この 1 のところに書いておりますけれども、活力や豊かさを測る指標としては一般的で、当然目標の一部になる。実際、資本主義経済では成長がなければ倒れてしまうので、否定するものでもない。特に大阪の場合は、いわゆる府市あわせの歴史があって、インフラ整備が遅れていて、まだそのキャッチアップの段階にあるので、本来都市が持っている潜在的能力が、まだ十分発揮されていない。その機会ロスのリカバリーという意味もあって、単に成熟都市だから、もはや GDP ではないというような状況ではない。

実際 2040 年に全国シェア、今 7% ぐらいだと思いますが、10% をめざそうというふうな目標を掲げた経緯があるし、それは正しい。さらに言うと、GDP を分解したときに出てくる 1 人当たりの所得ですね。これについては、ますます上げる必要性があるという現実がある。GDP にはとられ過ぎないけれども、無視はできない重要なファクターです。

2 番目に、一方で都市間競争ということ意識すると、世界の先進都市は何を目標に置いているのか。もはや成長というのを主たる目標にあまり掲げていない。欧州の場合は、ひたすらクオリティ・オブ・ライフとかウェルビーイングですね。アムステルダムはやや過激な先進都市で、脱経済、ドーナツ経済論みたいなものすら掲げていて、これはひたすらサステナビリティに対する市民の関心が高いというところから来ている。アメリカは気候変動とか持続可能性というのはかなり関心が高くて、いわゆるスマートグロースとか気候変動対策を都市ビジョンの中に据えている。我が国は国のリーダーを含めて成長戦略は大好きなんですけれども、いわゆる狭い意味の成長戦略にこだわると、「高度成長の夢をもう一度」

のような誤解をされてしまう可能性がある。こういう世界のトレンドも意識しながらグローブスの概念は幅広く捉える必要がある。

3のところへ行きますけれども、万博レガシーというのは、今回1つの今後の大きな発射台になる。それがまさに、いわゆる経済至上主義を超えようというところから、いのちというのをキーワードにしている。そういう意味では成長が全ての課題を解決するという従来型の発想から来る成長至上主義というのは、厳に慎んだほうがいい。

実際のところ大阪に引きつけて考えたときに、何なのか。やはりクオリティ・オブ・ライフの高い、魅力の高い都市になって、人口問題と人材問題というのは非常に深刻なので、優秀な人材、活力のある人を魅力ある都市に呼び込んで、あるいはキープして繁栄する。この魅力というところが非常に重要じゃないかと。

それから、あと当然ながら持続可能性を意識した都市運営をしていく。そうしないと実は経済成長もしない。

次のページ以降は、ChatGPTに入れたら30秒でこれだけ出てきて、すごいなと思うんですけども、1番ニューヨークの「OneNYC 2050」、これは持続可能性と公平性がキーワード。あと気候変動対策をかなり重視しています。ロンドンも持続可能、それから気候変動。パリもカーボンニュートラル。スマートシティで技術というのもちょっと入ってきています。上海が割と従来型なんですけれども、グローバル化とかイノベーションとかテクノロジーが大好き。ストックホルムは気候中立とか、ここもスマートシティですね。シンガポールはデジタル。東京は環境、それから都市のインフラ、経済の多様化、これは私も参加していた頃に議論したんですけれども、雑木林経済という、いろんなものがたくさん寄せ集まって、経済がしなやかにかつ強くなるという。どれも経済成長そのものを正面から掲げていない。

ということで、どこも経済成長は結果の一部であって重要だけれども、ひたすらそれを正面に据えてGDPをめざすんだという感じのビジョンではない。

傾向的には、何となくアジアはテクノロジーとか成長がまだ好きでヨーロッパとかアメリカはかなり気候変動とかサステナビリティにシフトしている。こういうことも見据えながら、大阪にふさわしいビジョンができればいいと思っています。

以上です。

(西島事務局長)

ありがとうございました。

続きまして、本日ご出席の皆様から資料2に関しまして、ご意見などがございましたらお願いをいたします。なお、本部長、副本部長におかれましては、最後に改めて本日の総括をいただく予定となっておりますので、よろしくお願いをいたします。

それでは、どなたからでも結構ですのでよろしくお願いします。

森岡副知事、お願いします。

(森岡大阪府副知事)

ご説明ありがとうございました。

ご説明いただいた資料の4ページになりますか、将来の大阪の姿（当面2030年）も示すということで、割と短期的な当面というのをイメージされているかと思うんですけど、それは当然要るとして、その上で、やはりもうちょっと長期のあるべき姿といったものも要るんじゃないかなと。特にまちづくりとかインフラ系といいますと、どうしても計画してからできるまで10年どころか数十年かかるようなやつが多いですので、そこらもちょっと今後の計画立案においては意識していただければと思います。

意見でございます。

(西島事務局長)

川端部長、お願いします。

(川端大阪府政策企画部長)

ありがとうございます。一旦2030年、2025年からのスタートということで置いておきますけれども、当然そういうインフラとかまちづくりについては長期に至るものもあると。さらには例えばカーボンニュートラルとか、2050年を射程に置いているものもありますので、杓子定規に2030年ということではなく、しっかりそのあたりの目標達成年次も含めて、柔軟に対応しながらしっかり将来の大阪を描けるように、そこはまたこちらのほうで工夫したいと思います。

(西島事務局長)

山口副知事、お願いします。

(山口大阪府副知事)

上山先生にアドバイスをもらいたいんですけども、先生のおっしゃることは、そのとおりやと思うんですが、ただやはり一方で、大阪はこの世界の各都市に比べて、まだまだ課題があるというか、先ほど先生がおっしゃられたように、完全な成熟都市になってきていないと。やはりどうしても我々事務方としては、まず成長があってこそだというふうな発想にどうしてもなるんですが、そのなかで大阪・関西万博に掲げられているようないのちであるとか環境であるとか、生命であるとか、そういうこととのバランスをどういう形で取って、施策をつくっていくのかというのは非常に重要になると思うんです。一応府と市でタスクフォースをつくって、今までやってきた取組なんかも踏まえながら、次どういうことを手打っていくのかということ、この中に織り込みたいということで、こういうことを出しているんだと思うんですが、どういう形でタスクフォースを進めていけばいいのか、先生が今考えておられることがあれば教えていただけるとありがたいなと。

(上山特別顧問)

世界の他都市を見ても、さっき申し上げたように、成長の概念をかなり幅広く捉えている。もう一つ大事なものは、経済成長と、いわゆるサステナビリティは対立するものだという先入観念は多分捨てなければいけない。サステナビリティ産業という言葉があります。再生可能エネルギーなんかそうだし、規制が変われば従来成り立たなかったものも成り立つ。中国なんかはまさに太陽光なんかにがんがん投資して金稼いでいますけれども。そういう意味でいうと、大阪・関西万博とはまさにそのような新しい、専門用語で言うとサーキュラーエコノミーという、ポスト資本主義まではいかないんだけど、次世代の資本主義をめざすような、環境制約をむしろ目標にした経済の姿をつくっていく。企業も模索中ですが、そちらに向けてリサイクルした商品はアップサイクルして新商品より高く売るとかいう流れにどんどん来ている。そうした流れを意識しないと、従来型のキャッチアップも必要な状況ではあるけれども、また1周遅れになってしまう懸念もある。なので、キーワードで言うと、サーキュラーエコノミーの研究はぜひタスクフォースでやっていただく必要がある。これでビジネスの姿が結構変わってくる。20年、30年かかるとは思いますけれども。それを先取りする。経済活動ベース環境保全というモデルを超えていく努力が1番重要。大阪・関西万博ってまさにそのところを考えるためにある。そこを都市としてどうやってつじつまを合わせていくか。

各論でいうと、エネルギー戦略なんかはとても重要になってきて、海外の太陽光で得たエネルギーを蓄電して水素で日本に持ってくるといったレベルの戦略論がこれから要るんじゃないかなと思います。

(山口大阪府副知事)

ありがとうございます。なかなか難しい課題を突き付けられていると思うので、今までのような、言葉悪いんですけど、付け焼き刃的に、対処療法的にということではなくて、もうちょっと広い視野で考えなあかんということなんでしょうけれども、その辺またいろいろとタスクフォースが動いてきたら先生のほうでご指導いただきたいと。なかなかどうしても我々は目先のことに走っていくというのが常ですので、よろしくお願いしたいと思います。

(西島事務局長)

ありがとうございました。ほかにご意見等ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。そうしましたら、お時間となってまいりましたので、このあたりで副本部長、本部長の順にご発言をいただければと思います。

まず副本部長、よろしくお願いをいたします。

(横山副本部長)

ご説明ありがとうございます。また、上山顧問におかれましてありがとうございます。

大阪・関西万博がいよいよ来年に迫ってしまっていて、これは大きなターニングポイントであるとともに、大阪・関西万博の先に向けて大阪をどう描いていくのかというのは、非常に重要なところかと思います。この時期にビジョンを取りまとめていくというのは非常に重要な、今ポイントにあるのではないかと考えておりまして。今ご説明いただいたとおり、まず成長戦略に関しては、大阪市は事務委託という形で大阪府に委託はしておりますが、しかしこの中核部分を担うのは、僕はやはり大阪市域が都市機能としても担っていく部分が非常に大きいと思っています。だからこそ、積極的に提案して大阪のビジョンを描いていくという作業を、皆さんとともに進めていきたいと思っていますので、この点に関しては描かれた部分や作業について、ぜひ積極的に共に進めていけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

上山顧問のほうから頂きまして、僕も非常に重要な観点だと思っているのは、生きやすさというか、ウェルビーイングというのは非常に大きなキーワードになってきていると思っています。世界の幸福度ランキングでいうと、割と日本は低いんですね。どのランキングを見ても50位とか、G7でいうといつも最低に入っている。大阪は日本の中でどれぐらいに位置するのかという、大体半分以下ぐらいにランクインしています。非常に高度に都市機能が発達していても、住む人が幸せじゃないと、やはりこれは本末転倒になってしまうので、高度に都市を発展させた上で住んでいる人が生きやすい、住みやすい、幸せに思うという都市をめざしていくというのは非常に重要だと思います。

こういった観点で、僕のほうから非常に気になるというか関心が高いのが、都市魅力・観光の部分です。この資料でいうと15ページになるんですが、都市魅力・観光の部分では、たくさん書いていただいております。特にナイトカルチャーの不足というのは、従前から割と指摘を受けています。多くの人が、もう夜までしっかり楽しく遊べるような環境は、今インバウンドも多く増えておりますので必要かなと思います。僕がロンドンに行ったときも、もともとの歴史もあるのでしょうかけれども、そこかしこにミュージカルがあって、ずっと夜までにぎわってました。その話ばかりしたらちょっとあれなんですけど、6時ぐらいからもういろんなところでみんな立ち飲みしてまして、大阪も場所によってはそうなんだろうけれども、何というか、中之島の美術館でユニークベニューも僕は行きまして、非常におしゃれで、ああいう美術館でパーティーをするというのはすばらしいと思うし。聞くところによると、もう6時にいかにタイムスリップするのかが向こうの重要性で、その後は、そこからはもう自分たちのライフを楽しむというのが常識になっていると聞きまして。一足飛びにはいかないものの、働きつつも、その後もしっかり楽しめるような環境を、ゆとりを持って楽しめるような環境を社会としてつくっていかないと、これから先、若い人材も、ひと昔前とはちょっと違うのかなと考えていまして、いかにライフとワークのバランスを保てるかというのが生きがいの指標になってくるなかで、ゆとりを持った都市の機能をつく

っていくのが重要だと思います。ナイトカルチャーやアートですね。パブリックアートなんかも、JR 大阪駅西口の「ジョジョの奇妙な冒険」のパブリックアートが非常に気になっていました。あれはいつもたくさん人がいてにぎわっていますよ。そこかしこでアートがあると。ゆとりがあって、それが、僕はひいては生産性の向上につながって経済成長の一環も担っていきと思っていますので、ぜひこういったことを複合的に進めながら、都市の成長を描いていただきたいと思います。

スーパーヨット、クルージング、あと舟運のエンタメ化というところも進めていただきたいと思います。これは公共施設を使うことになるのでハードルは高いと思うんですが、可能な限り緩和をしながら、この辺の取組を進めていただきたいと思います。

全然時間がなくて、もっとしゃべりたいんですけども、この後多分知事からもご発言あると思いますが、このエンタメのところではF1を含むモータースポーツという記載もいただいております。これはぜひ、なかなかハードルがあって一時はあきらめたというのがありますが、民間さんのほうで非常に大きな動きもしておられていますし、ぜひこのモータースポーツの推進等も進めていただきたいと思います。

こういったことを複合的に進めながら、大阪をもう一段、さらに上のランクに進めていく取組というのを発信する非常に重要なタイミングだと思っておりますので、府市一体となって進めていきましょう。

よろしく願いいたします。

(西島事務局長)

ありがとうございます。

本部長、お願いいたします。

(吉村本部長)

まず、大阪は経済都市でありますので、経済の成長をめざしていくというのは、当然そうなのかなというふうに思います。ただ、そのめざし方として、大阪の個性というか、そういったものを特に発揮するような、大阪といえばこういうまちだよねというような付加価値というか、そういったものを大切にしていくなさと思うんです。これは大阪だけではなく、今回は大阪・関西万博ですけれども、世界単位で見たら大体京都も奈良も1つのリージョンなので、そういったある意味、この大阪を中心とする関西というのは世界的な遺産もたくさんある、そういったまちの中心に大阪の経済都市があるという、ある意味地の利も生かしながら、大阪の中にたくさん歴史的なものも、歴史は非常に深いわけですから、そういった個性を発揮して、そして住んでいて楽しいなと、QOLが高いなと、ここで仕事がしたいなと思えるようなまちをもっともっと突き抜けてめざしていくべきではないかというふうに思っています。東京は非常にビジネス的な要素が高い首都で全てが集中していますけれども、大阪はそこはある意味ちょっと違って、住んでいて楽しいなと、QOLが高いなと。そ

ういった意味での広いいのち輝く未来社会のデザインを実現する、体現する都市をめざすべきだというふうに思います。なので、次世代のビジョンというか、そういう観点からこのタスクフォースであったり、これから積み上げていくのをやってもらえたらというふうに思います。

QOL、住んでいてよかったなというような、大阪って例えばうめきたがこの間できましたけれども、うめきたの緑もすごくいいなと思うのが、都心のど真ん中に本物の緑というのはずっと言っているとおりなんです、ただ、庶民的なんですよ。何かというと、いろんな人が芝生で楽しめる。都心のど真ん中なのに、子どもたちが噴水のところで水遊びをしている。これって多分、例えば非常に所得層の高い人たちのためにつくったまちではないというのは、すごく感じる場所もあって、緑を中心としているんだけど、まちづくりに大阪らしさが出ているなと僕はうめきたを見て感じているんです。大阪の個性を発揮するようなまちづくりを、どんどん突き抜けてやっていくべきだというふうに考えていまして。そういった意味では大阪・関西万博のレガシー、いのち輝く未来社会のデザインとは何だろうというのを問いかけながら、もちろんライフサイエンスであったり、様々なカーボンニュートラルであったり、大阪・関西万博で披露される技術、これをいかに実装化していくかということなんですが、その背景の価値観ということも大事にしてもらえたらと思います。

僕は広い意味でのエンターテインメントというのを、もっともっと個性化していったらいいのではないかなと思っています。そういう意味では、例えば大阪は水都といわれています。舟運のエンタメ化なんかも、もっともっと進めることができると思っています。あと先ほど市長がおっしゃったようなパブリックアートもそうだと思うし、ナイトエンタメ、ナイトカルチャーなんかも、日本はどこもそういうのを本格的にやっているところはありませんけれども、大阪はこれにチャレンジしたらいいんじゃないかなというふうにも思います。

それから、エンターテインメントという意味では、IR がもうできることは決まりましたから、そこではいろんなショーとかシアターができますので、いろんなエンターテインメント発信拠点には間違いなくなってくる。

F1を含むモータースポーツの推進も、僕はこれは非常に魅力的だと思っていて、かつて1度はF1の誘致というのは、僕はやろうということをやったことがあるんですけど、これはなかなか府市というか、行政でやるのは難しいよねということで、1回畳んだという経緯があります。都市としてこれは非常に、これからもさらに面白いものだというふうに思っていますので、民間で誘致の動きも出ていますから、そういったことをしっかり後押しをしていけばいいなというふうに思います。

大阪にはいろんなエンターテインメントがあって、大阪というのは本当に住みよく楽しくて、ここに住んでみたいなど。仕事もあるし、いろんな新しいものをみんなどんどんチャレンジするし。そういった個性を重視するまち、その中で経済成長をめざしていくということをぜひ必要じゃないかと思っています。そういった意味ではタスクフォースでも、1のイノベーションも非常に重要だと思いますし、3の都市魅力・観光、ここも非常に重要だとい

うふうに思っていますので、大阪としての付加価値、ここでしかないもの、それはある意味広く見れば、関西全体を見渡した上で、単に享楽という意味ではなくて広い意味でのエンターテインメントを重視するまちというのをめざしていけば、僕は突き抜けるのではないかなというふうに思っていますので、そのあたりもちょっと頭の隅に置いて検討をお願いしたいと思います。

(横山副本部長)

すみません、1点だけ。この都市魅力・観光のところ、タスクフォースで作業を進めていただくとするんですが、都市魅力創造戦略のほうの改訂作業もあると思いますので、上山顧問も非常に貴重なご意見いただいておりますし、ぜひ有識者の方の意見もしっかり踏まえながら作業を進めていただきたいと思います。

よろしくお願いします。

(西島事務局長)

ありがとうございました。

(吉村本部長)

それから、予算編成の課題とかもあると思いますので、またしっかりとスピード感を持って副市長、副知事、ハンドリングしながら、来年度予算に反映すべき点もあると思いますから、よろしくお願いをいたします。

(西島事務局長)

ありがとうございました。

本日いろいろ様々ご意見賜りましたので、先ほど説明させていただきました資料の今後の進め方、スケジュールに従いまして、今日頂いたご意見を踏まえながら、タスクフォースでしっかり議論して進めていくということでよろしいでしょうか。

それでは、本日は以上となります。ご議論、誠にありがとうございました。

本日予定しておりました囲み取材につきましては、大変申し訳ございませんが、時間の都合により中止とさせていただきます。特別顧問をはじめ、皆様お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。これで終了いたします。